

中学生ボランティア新聞 ふろく 地域から学ぶ私たちの未来

*本紙の特集事例をよりくわしく解説！あわせてご活用ください。

先生方へ
やまびこだより
No.147
今号の特集から

プラムタイム 総合的な学習の時間 全体計画

宮田中学校
H29年度

この全体計画をもとに3年間で学びが深化していくことを願って、カリキュラムを作成しています。職場体験(狭義のキャリア教育)もプラムタイムの一環として、3年間の総合的な学習と密接に関連づく中で実施しています。

学校教育目標
自分の姿を見つめ 心豊かに伸びる
～教育理念【自己をみる】～

生徒の実態

- ・自分のすべきことを誠実にやる事ができる。
- ・挨拶、清掃、合唱にむきに取り組む。
- ・友達や相手を大切に思う心の優しい生徒が多い。
- ・自分の考えを出す生徒が増えてきた。
- ・自分で考えず人の指示で動きがちがある。

保護者の願い

- ・学習に一生懸命に取り組む、学力を高めてほしい。生徒活動、部活動も頑張ってもらいたい。
- ・いじめのない、互いに思いやる心に満ちた生活を送ってほしい。
- ・時間にけじめのある生活を送ってほしい。

地域の実態

- <ひと>
- ・「プラムの里」利用の高齢者とそこで働く人々
 - ・製造業、農業、商業、観光、村政で働く人々
- <もの>
- ・西駒ヶ岳をはじめとした豊かな自然
 - ・企業、商店街、神社仏閣、聴導犬協会
- <こと>
- ・精密機械業を中心とした製造業
 - ・商店街を守り活性化に向けた活動
 - ・アサギマダラの里づくりなど自然活動

地域の願い

- 宮田村教育大綱【郷育】「故郷に生き 故郷を愛し 故郷を創る 人財の育成」
- ・「校門での一礼」を大切に、挨拶をしっかりできる子どもたちになってほしい。
- ・ふるさと宮田を愛し、宮田と共に生きる人間になってほしい。

プラムタイムの目標

もの・ひと・こととのかかわりを通して、問題解決の力と「人とのかかわり共感する力」を高めるプラムタイム

育てようとする資質・能力及び態度

- 1 複雑な問題状況の中から課題を発見し、情報に関連づけ、判断し解決する。
- 2 自らの行為について責任をもって判断決定し、自己の将来につなげていく。
- 3 異なる意見を取り入れ、他者と共同して問題を解決する。

【内容】

課題	学習対象	学習事項
伝統文化 観光	伝統文化・自然環境の価値の発見と発信する人々	文化、自然を調査し、宮田村の今後における観光の発展について考える。
福祉	プラムの里、東保育園から学ぶ福祉の仕組み	幼老一体型の福祉充実に向けての活動を考える。
商業 特産物	地域食材や製品を生産する人々とその思い	宮田村の商業の実際と課題、特産物、発展性について考える。
科学技術	宮田から発信する科学技術	宮田村の製造業を調べ、企業誘致による人口増加と宮田村の発展を考える。
地域経済 村政	商店街の活性化にむけ努力する人々の魅力	商工会・役場と連携し、商店街に具体的に働きかけ、活性化を実現する。
職業	地域で働く人々の姿と願い	職場体験を意欲的に行い、企業等の強みを知る。

学習活動

- 【1年】知ろう! 宮田村～宮田村で活躍する人々との出会い～
- 【2年】体験しよう! 宮田村～宮田村の良さを発信するための体験活動
- 【3年】よりよくしよう! 宮田村～宮田村をより良くするための提案

【指導方法】

- 対象に対して生徒が課題意識をもつための指導の工夫
- 連続的な課題解決学習となるための題材展開の工夫
- 学年テーマに基づき、学年毎にオリジナル溢れる題材
- グループごとの対話やコミュニケーション活動を取り入れた授業展開

【学習の評価】

- ポートフォリオを活用した評価
- 観点別学習状況を把握するための評価基準の設定
- プラムデー、プラムタイムにおける指導と評価の一体化の重視
- 複数の職員で行う評価
- 授業分析による学習指導の評価

【指導体制】

- グループ毎に担当職員がつき、共に学ぶ体制
- 学年会での情報交換
- 村教育委員会キャリア担当職員との連携
- 宮田村キャリアフォーラムへの参加

協力：宮田村立宮田中学校

発行日：平成30年2月20日 発行：社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 地域福祉部 ボランティア振興グループ
〒380-0928 長野市若里7-1-7 TEL.026-226-1882 FAX.026-228-0130
E-mail vcenter@nsyakyo.or.jp URL http://www.nsyakyo.or.jp/



ふっころ
長野県社会福祉協議会
公式キャラクター

地域が学びの舞台 総合的な学習の時間 プラムタイム



宮田村立 宮田中学校

宮田中学校では、総合的な学習の時間を、地域が「梅の里」と呼ばれていることにちなみ「プラムタイム」と呼んでいます。また、年2回、6月と9月に半日かけて活動に取り組む「プラムデー」を設けています。

事例の概要

興味あるテーマを3年間で「知る、体験する、提案する」

宮田村立宮田中学校では、3年間をとおして学びを深める総合的な学習の時間「プラムタイム」に力を入れています。

1年目の「知ろう! 宮田村」では宮田村の様々なことを調査します。2年目の「体験しよう! 宮田村」では、1年次に調査したところで職場体験を行い、より深く学びます。3年目の「よりよくしよう! 宮田村」では、2年間の学びの中での気づきから創造的な活動を行います。

「知ることと体験することが一緒になってはじめて深くわかる。やってみて気づくことがたくさんあるんですよ」と話すのは教頭の土橋浩一郎先生です。決められたことをやるのではなく、子どもたちが興味を持ち、やりたい活動を大切にしているのが特徴です。

福祉の思いから生まれた「一日喫茶店」

2016年度の3年生の取り組みでは、施設コースの生徒が喫茶店を開き地域のお年寄りを招待し、交流を深めました。

1年次の学びで「宮田村は福祉が充実している」ことに気づいた生徒たちは、「商店街の活性化」とあわせて、施設を利用しているお年寄りに喜んでほしいという思いから、喫茶店を開くことにしました。

開店までには、施設の職員さんや栄養士さんからもアドバイスを頂きながら、どうしたら皆さんが喜んでくれる喫茶店ができるのかを話し合いました。

「メニューは小さく食べやすいものがいいよね」「私たちの元気も一緒に届けたい」「予算はどうしようか」……試行錯誤の末、当日は約30人のお客さんが来てくれました。

「地域の担い手」を願って

「人と人との繋がりが福祉」と1年次から学んできたので、自分たちが誰かと誰かを繋ぐ役割ができるといいなという思いが生徒たちにもあったと思います」と担任の岡田泰輔先生は話します。

「生徒たちが困っていたら助け舟を出す。誘導をするのではなく、想いを整理し実現させるための手助けをするのが私の役割だと思っています」。岡田先生が作成したワークシートからは、生徒の気付きから生まれる取り組みを大切にしていることが伝わってきます。

このような取り組みは2年間の「相手を知る」という学びを丁寧にしてきたからこそ生まれました。3年間、宮田村に向き合ってきた生徒たちが地域の担い手になっていくと思うと未来は明るいです。

プラムタイムのカリキュラム 課題解決的に深まる学びの道筋

プラムタイムの全体計画（4ページ参照）に沿ってカリキュラムを作成。
「もの・ひと・こととのかわり」を通して『問題解決の力』と『人と関わり共感する力』を高めるプラムタイムを目標としています。

1年

知ろう！宮田村

宮田村のもの・ひと・こととの出会い

村政	宮田村の自慢 ・職入及び職出 ・魅力ある政策
農業	農業の特色や魅力 ・学校給食との関わり ・学校給食を育てる会
製造業①	地域に根差した建築・土木関連企業の実績と課題 ・三浦木工、加藤建築、南田建設から学ぶ子作家の意味と価値
製造業②	宮田アルマイトの強みと課題 ・宮田村製造業の実績と課題
商業・特産物	本坊酒造、あさひの強みと課題 ・商業の実績と課題、特産物と発展性
福祉	プラムの里、東保育園等を調査して考える 宮田村の今後の福祉のあり方
環境・歴史	西駒ヶ岳、大田切川にある自然の美しさ ・宮田紙園祭の保存と観光への生かし方

1年女子の感想 あらためて宮田村って凄いと思うことがたくさんありました。来年の体験では職場の方の思いにせまりたいと思っています。3年時には、誇りを持って村の発展のために提案のできるよう心を磨いていきたいと思っています。

2年

体験しよう！宮田村

よさを知り発信するための体験

村政	役場 ・北消防署 ・郵便局 ・子育て支援センター ・JA宮田
農業	食ごころ ・農事組合法人ひかり ・フルーツファームひおく ・小田切花き ・高嶋正明さん
製造業	日本発条 ・長野システム開発 ・テーケー ・松井自動車 ・ティービーエム ・宮田自動車 ・吉沢水道 ・タカノ
商業 特産物	Aコープ宮田 ・ニシザワ ・あさひや ・いこいさん ・フェレステ ・みにがらん ・旬彩ダイニングM
福祉	東保育園 ・こらめ保育園 ・西保育園 ・プラムの里 ・日本聴導犬協会 ・ノムラや薬局 ・あるが産科クリニック
環境 歴史	宮田とうろ工房 ・本坊酒造 ・細田染織 ・役場 ・中央アルプス観光

職場体験

具体的な活動体験

2年男子の感想 「仕事は大変だ」「疲れる」というイメージでしたが、このキャリアフォーラムでは自分のイメージとは違う「仕事には達成感がある」ということを教えてくれました。将来僕はどんな仕事に就職するか分からないけれど、目標をもち仕事に臨んでいきたいです。

3年

よりよくしよう！宮田村

宮田村の課題、村への提案

- 修学旅行での宮田PR活動
 - グループパンフレット制作
 - 京都駅での村PR活動
- 発展的な活動
 - 「みやだかるた」作り
 - Mcバーガーの商品化
 - 喫茶店で商店街の活性化
- 子ども議会での提案
 - 「自然」「伝統文化」「食」「施設」グループによる村議会での宮田村活性化に向けての提案

3年女子の感想 実際のお店をお借りして喫茶店をできるなんてないと思うので、すごくいい体験でした。うまくいかないことや失敗してしまったこともあったけど、大きなものを学べた気がしました。来てくれたおじいちゃんが「こんなに美味しいもの初めて食べたよ」と言ってくださって、とてもうれしかったです。



京都駅での村のPR活動



Mcバーガーの商品化



「みやだかるた」作り



宮田村子ども議会

人づくりからまちづくりへ 大人も共に創りあげる時間

宮田中学校 教頭 土橋浩一郎 先生

プラムタイムのベースは「宮田村」という地域です。1年から3年まで3年間をリンクさせて地域を知り、体験することで、深い活動が生まれます。学びを深めることで、やりたいことが自然と出てくる。1年生でじっくり調べ、2年生でそこで職場体験をします。前年度までは別々だった職場体験と総合的な学習の時間をリンクさせ、子どもたちが興味を持ち、やりたい活動を大切にしているのが大きな特徴です。

学年テーマは毎年同じですが、カリキュラムの中身はその年々で違います。学年職員がアイデアを凝らし、生徒たちと共に創り上げていくのがプラムタイムです。どの学年も総合的な学習の時間を大事にしており、本校の核になっています。

やらされている活動は単発で終わってしまい、次につながりません。プラムタイムでの活動体験が子どもたちのなかでどう耕して発展させていくか、これから生きていく過程の一つになればいいと思います。



施設コース「一日喫茶店」

1年次 知ろう！宮田村

日本聴導犬協会、ふれあい広場、商業と介護が一つの建物の中にある「オヒサマの森」など村内の7つの施設を見学。事前に質問項目をまとめ、課題をもって訪問。社会的弱者に寄り添って運営されている各施設を見学。生徒は、お年寄りも障がいのある人も健常者と同じように生活する環境を整えることに共感。「宮田村は福祉に力を入れている」ことを学ぶ。

2年次 体験しよう！宮田村

「福祉」と「施設」の観点から、活気が感じられなかった商店街の活性化を課題に設定。人を呼び込むためにできることを考え、「一日喫茶店の開店」「村の施設の紹介マップづくり」のグループに分かれて体験活動。

【喫茶店グループ】
「オヒサマの森」を管理・運営している有限会社わが家の代表の大石ひとみさんと協力を得て喫茶店開店にむけお話を聞く。資金調達のため参観日にバザーを実施。

商店街を盛り上げるために お年寄りやいろんな人が気軽に寄れる喫茶店をやろう！

3年次 よりよくしよう！宮田村

「一日喫茶店」開店
・メニューづくり
・デイサービス等の利用者の方を招待
招待づくり



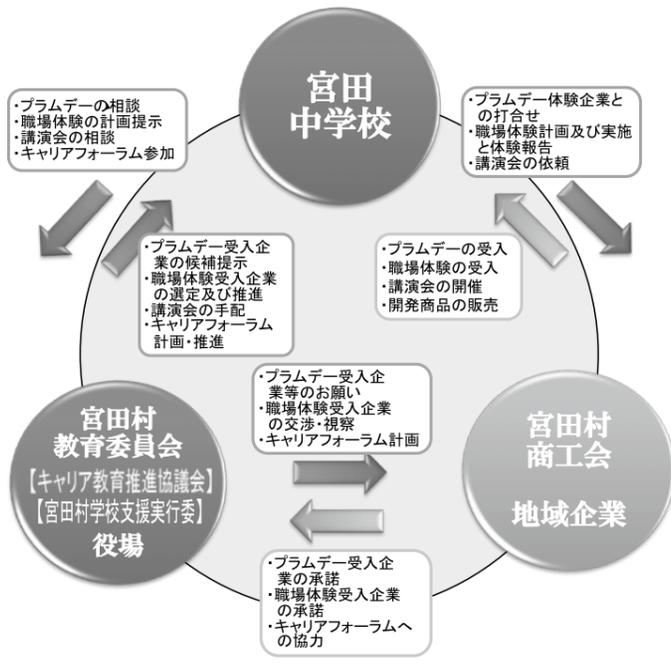
宮田中学校プラムタイム 職場体験を支えている仕組み

宮田中学校では、官である宮田村教育委員会と役場、産である宮田村商工会と地域企業に大きく支えられ、産学官が一体となり、キャリア教育を実践しています。教育委員会では、「キャリア教育推進協議会」、総合的な学習をサポートする「宮田村学校支援実行委員会」が核となっています。商工会や企業は受入体制を整え、プラムタイムや職場体験が具体的に動き出します。学校は、商工会や企業と打合せを行ったり、講演会の依頼をします。また、開発商品の販売等、具体的な活動の相談もします。商工会や企業はそれに全面的に応えてくださり、プラムタイムの活動や職場体験の実施となります。



職場体験で地域の産業や事業所の強み、働くことの楽しさや厳しさ等を体感した生徒たち。その体験をもとに、第1回宮田村ふるさとキャリアフォーラムに参加し、「働くことの魅力と大変さ」「ふるさと宮田に対する想い」をテーマに、小中学生の発表、パネルディスカッション、グループディスカッション等を行い、大いに盛り上がりしました。

産官学の連携によるキャリア教育



総合的な学習の時間は「主体的・対話的で深い学び」の実践

地域の方などの協力を得て、生徒が自ら課題を見つけ、それを追究するための活動を考え取り組んでいく「総合的な学習の時間」の在り方は、まさに、「主体的・対話的で深い学び」の実践であると考えます。

そういう観点に立つと、初めは教師が活動を仕組んでも、その先は生徒が考えていくものであり、活動の先にあるものの見通しを生徒自身も持っている必要があります。行き当たりばったりのものにならないためにも、生徒が活動計画を十分に立てられるように教師側の支援も必要です。

私が担当した「施設」コースでは、『一日喫茶店をやろう』という意見が出てきました。私自身もどうすれば実現にこぎつけることができるか悩んでいたところに手を貸してくださったのが、地域の方でした。地域の方のおかげで、解決すべき課題を明確にし、その課題に対して主体的に追究する生徒たちの姿を見ることができました。



宮田中学校 岡田泰輔 先生